

世界をぐるり～なるほど！ふしぎな家のすてきなくふう～ 「人をつつむ形—世界の家めぐり」

本単元で育成する資質・能力

主体性・思考力・自己理解

単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領国語科第3学年及び第4学年、「C読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」の内容を受けて設定したものである。本単元では、学習指導要領の言語活動例（2）「ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。」を基に、世界の家の不思議について分かったことを友だちに知らせることを目的として「世界のふしぎな家カード」にまとめる言語活動を位置付ける。教材文や並行読書した本の中から見付けた世界の家の不思議の理由を写真や絵、文章にまとめる活動を通して写真と文章の関係や段落相互の関係を考えたり、中心となる語や文をとらえながら文章を読み、要約したりする力を身に付けることをねらいとしている。

教材文「人をつつむ形—世界の家めぐり」は、写真家の小松義夫さんが世界中を旅して出会った家を撮影した写真と文章で紹介していく文章である。文章では不思議な家のつくりや材料と土地の特徴や人々の暮らしを関係付けながら説明している。他の国について児童が知っている情報はとても少ないが、学級に外国籍の児童がいることもあり、日本以外の他の国のことについて興味、関心をもって読むことができると考える。教材文では、「家をつくる時の材料や工夫」は「その土地の特徴や人々の暮らし」と関係しているという筆者の考えを基に説明しているため、大事な言葉や文に着目し、不思議な家についての内容をとらえやすい。また、写真と文章を関連付けながら読むことで説明をより具体的にしている。文章だけでなく写真や絵が文章に書かれていない情報を効果的に伝えていることにも気付かせたい。さらに、説明文を読み解く手がかりとなる大事な言葉や中心文を整理していくことで、見出しを考え、筆者の観点で因果関係を意識して正確に読み取る力を育成するのに適している。

- 本学級の児童は、1学期に説明的な文章「自然のかくし絵」、2学期に「もうどう犬の訓練」では、大事な言葉や中心文を見付けながら文章を要約し、文章の大体をとらえることを学習した。また、大事な言葉や中心文に線を引きながら読んだり、「初め」「中」「終わり」の構成で説明されていることについて知り、まとまりを意識して読み取ったりする学習を行ってきた。

4月に行った「海田町標準学力調査」において、「説明文の読み取り」の問題では、「時間的な順序、事柄の順序を考えながら、内容の大体を読むこと。」の通過率は57.0%で全国平均の61.0%と比べ低かった。このことから、文章を正しく読み取る力に課題があることが伺える。

児童の実態は活発で、学習課題について興味関心が強く、友だちの意見を聞きながら自分も話したいという姿が見られる。学習の振り返りや案内状など、書くことに対して抵抗がない児童が多い。しかし、長文を読む力については個人差が大きく、気分がむらがあり集中力を持続させることが難しい児童がいる。三次の交流会に向けて、児童一人ひとりが自信をもって世界の不思議な家を紹介できるよう、「できた」という充実感を味わいながらまとめさせたい。そのためには、「何のことについて」

「どのように」まとめていくのか、読む目的を明確にし、見通しをもたせて活動に取り組ませていきたい。

○ **課題を発見・解決する力**

児童が世界の家の不思議について興味や関心をもち、自分たちが住んでいる日本の家との違いやその理由について驚きを覚えながら内容を読み取り、もっと知りたいという意欲を喚起できるようにしたい。導入場面では、教材文の「人をつつむ形」という言葉について考えさせ、家の絵本や世界のいろいろな形をした家の写真を提示して不思議な家の形に興味付けをする。また、家の不思議だけでなくそこに住む人の様子や周りの自然や気候などの特徴を写真を見て想像しながら話し合い、教材文から世界の家について知りたい、学んだことを伝えたいという願いを児童から引き出すようにしたい。

そして、世界の家について学んだことを「世界のふしぎな家カード」にまとめ、友だちに伝えようという単元のゴールを設定する。目的を明確にすることで主体的に学ぼうとする意欲を高めたい。また、教材文を読むことで付けた力を主体的に自分の学習に生かしていくことができるように、世界の家に関する写真を掲示し、世界の家の本を自由に読むことが出来る環境を整えておく。

○ **深く考える力**

説明文の内容を読み取る段階では、写真と文章を関連付けながら読み、「材料や家のつくりの工夫」や「土地の特徴や人々の暮らし」に関係のある言葉に着目してキーワードや中心文をおさえ、要点をまとめていくようにする。その際、「ため」「ので」などの理由を明確にするための接続語の表現に着目して因果関係に気付かせながら、文章構成をとらえさせていきたい。

取り上げられた国の家の不思議なつくりの理由を読み取る際には、思考ツールの「KJ法」を用いてたくさんの情報を分類していくことで視覚的に分かりやすく整理し、因果関係に着目させることで文章の構成に気付かせたい。そして、「世界の家カード」に見出しを付けてまとめていくことで不思議な家の特徴となる大事な言葉や文を落とさず引用して、まとまりごとの内容を要約する力を身に付けさせる。

カードは、習熟度に合わせてヒントカードを用意し、児童が自由記述をしていく時に困っている時には使ってまとめさせるようにする。教材文に使われている言葉を自分なりの言葉で言い換えながらまとめていく方法を段階的にていねいに指導するための手立てとしたい。

並行読書をした世界の家についての本の中から、自分が紹介したい家についてまとめていく段階では、まず、家の不思議を見付け、家のつくりや材料、土地の特徴や人々の暮らしについて読み取ったことを付箋に書き出させていく。その後、家の不思議の理由を説明するために必要な情報は何かを考えるために、「家のつくりと材料」、「人々の暮らし」、「土地の特徴（そのつくりになっている理由）」の三つの観点で付箋を並び替える情報を精選していく中で、見つけたキーワードの中から「そのつくりになっている理由」を見つける。その際、そのつくりになっている理由が気候に関係していることに気付かせるよう、発問を工夫する。その後、「家のつくりと材料」、「人々の暮らし」、「そのつくりになっている理由（土地の特徴）」の三段落でカードにまとめさせていく。教材文で付けた要約する力をここでも生かせるようにしたい。

○ **自己を理解する力**

課題設定の段階において、これまでの説明文の学習を想起させ、本単元で付けた力を児童に伝える。その力を付けるためにどのような学習をしていけばよいかを話し合いながら、学習計画を児童と共に立て、単元終了時のゴールの見通しをもたせる。学習内容や付けた力を掲示し、随時活用する

ことで児童が見通しや目的意識をもって学習に取り組めるようにしたい。単元の振り返りの段階では、「世界のふしぎな家カード」を学級の友だちと交流し感想を伝え合うことで、自分や友だちの表現のよさや工夫に気付かせたい。学びのモニタリングの時間では、作品や友だちからの評価やノートなどを基に、単元の初めに立てたゴールの見通しの視点で自らの学びや学び方を振り返る。その中で、目的を明確にもちながら文章を読んだり、書いて伝え合ったりすることのよさや楽しさに気付かせ、今後の学習意欲につなげていきたい。

単元の目標及び内容について

- 世界の家に関心を持ち、知りたい家の造りについて書かれている本を進んで読み、調べようとする。 【関心・意欲・態度】
- 「世界のふしぎな家カード」を作るために、筆者の観点に着目し、因果関係を考えながら読むことができる。 【読むこと イ】
- 中心となる語や文をとらえながら文章を読み、言葉を補ったり書き換えたりして、世界の家のつくりについて読み取ったことを要約することができる。 【読むこと エ】
- 指示語や接続語が文と文の意味のつながりに果たす役割を理解し、要約する際に用いることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ク)】

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
【言語活動】 世界の家について紹介する「世界のふしぎな家カード」を作る。		
世界の家に関心を持ち、知りたい家についての本を進んで読み、調べようとしている。	目的に応じて、文末表現などから因果関係に着目し、筆者の観点に沿って考えて読んでいる。 文章の中心となる語や文をとらえながら、言葉を補ったり書き換えたりして読み取ったことを要約している。	写真や絵が文章の説明に果たす役割を理解し、「世界のふしぎな家カード」作りをする際に使っている。

指導と評価の計画

全 11 時間

次	時	学習活動	評 価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
一	1	<p>課題の設定 (1)</p> <p>○沖縄の家や外国の家の写真を見せ、どうしてこんな家なのかを想像し、家のつくりが違うことに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界にはどんな家があるのか、カードでふしぎな家の秘密を知らせたいという願いをもつ。 ・本文から読み取ったことを「世界のふしぎなカード」にまとめる学習計画を立て、ゴールの見通しの視点を確認する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・世界の家に関心を持ち、学習の目的や目標を理解しながら学習計画を立てようとしている。 	行動観察 ノート

次	時	学習活動	評 価				
			関	読	言	評価規準	
一	2	<p>情報の収集（５）</p> <p>○世界の家についての筆者の考えを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボリビアとルーマニアの家の写真を見て不思議を見付ける。 ・５つの段落の役割と事例の内容から、筆者が家づくりの材料や工夫、人々の暮らし、その土地の特徴の三つの観点で説明していることに気付く。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の中心となる語や文をとらえ、筆者の考えとなる三つの観点について要約している。 	行動観察カード
	3	<p>○モンゴルの家のつくりについて整理して読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの家の不思議を見つける。 ・本文や写真から情報を集めて、図に整理し、K J法を用いて説明する。 ・家のつくりを、材料や工夫と土地の特徴や人々の暮らしを関連付けて読み取り、「世界のふしぎな家カード」にまとめる。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・「モンゴル」の家のつくりを説明文や写真、絵から読み取り、中心となる語や文をとらえて筆者の観点で要約している。 	行動観察カード
	4	<p>○チュニジアかセネガルのどちらかの家のつくりについて整理して読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チュニジアかセネガルの家の不思議を見付ける。 ・本文や写真から情報を集めて、図に整理し、K J法を用いて説明する。 ・家のつくりを、材料や工夫と土地の特徴や人々の暮らしを関連付けて読み取り、「世界のふしぎな家カード」にまとめる。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・「チュニジア」か「セネガル」を選択し、どちらかの家のつくりを説明文や写真、絵から読み取り、中心となる語や文をとらえて筆者の観点で要約している。 	行動観察カード
二	5	<p>○自分が不思議と思った世界の家に関する情報を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ家の写真やその国の人の暮らしや土地の様子など分かることを付箋に書き出していく。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ資料の中から分かることを読み取り、書き出している。 	行動観察ノート
	6	<p>整理・分析（２）</p> <p>○自分が不思議と思った世界の家について、本文や写真から情報を集めて、図に整理し、K J法を用いて分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋に書き出したことを、三つの観点に沿って分類する。 ・家のつくりについて写真から分かることや説明を読み、不思議の答えになる必要な情報を精選する。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ資料の中から書き出したことを三つの観点に沿って分類し、必要な情報を選んでいる。 	行動観察ノート

世界の家の本の並行読書

次	時	学習活動	評価				
			関	読	言	評価基準	評価方法
	7	<p>○自分が不思議と思った世界の家について「世界のふしぎな家カード」にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ世界の家について調べ、教材文で学んだことを生かし教材文の世界の家と関連付けながら特徴を紹介する文を書く。 自分が一番伝えたいことは何かを考えて、見出しをつける。 自分が伝えたい不思議の理由になる情報を、筆者の三つの観点でまとめ、その理由が第三段落に書かれているか文章の構成を確認する。 <p>【本時】</p>			○	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ情報から見出しを書いたり、三つの観点に沿って文章にまとめたりしている。 	行動観察カード
二	8・9	<p>まとめ・創造・表現（2）</p> <p>○「世界のふしぎな家カード」を仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> カードの文章構成を確認する。 自分が選んだ国について「世界のふしぎな家カード」にまとめる。 自分の選んだ家の文章を書き直したり、付け加えたりしながら清書をする。 			○	<ul style="list-style-type: none"> 世界の家の不思議な理由を説明するために、「世界のふしぎな家カード」作りをする際に理由を表す接続詞を使っている。 	行動観察カード
	10	<p>振り返り（2）</p> <p>○作品を交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品を読み合い、作品の評価を付箋に書く。 付箋に書いた評価をもとに作品のいいところを伝え合い、グループごとに世界の家について考えたことを話し合う。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 筆者の三つの観点で文章にまとめられているかに着目して読み合い、感想を伝えようとしている。 	行動観察評価付箋
三	11	<p>学びのモニタリング</p> <p>○自らの学びや学び方を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の初めに立てた「ゴールの見通し」の視点でノートや「世界のふしぎな家カード」を基に自らの学びを振り返る。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 自らの学びや学び方を振り返り、学習したことをこれからの学習に生かそうとしている。 	行動観察ノート

本時の学習

(1) 本時の目標

- 並行読書をしてきた本に書かれている事例の中から選んだ家について、①材料や家の造りの工夫 ②人々の暮らし③土地の特徴（そのつくりになっている理由）の三つの観点で情報を整理し、「世界のふしぎな家カード」に三段落でまとめることができる。

(2) 本時の評価規準

- 調べようとする家のつくりや人々の暮らしについて、文章と写真を関わらせながら読み取ったことを要約している。 【読む能力】

(3) 本時の学習展開（7時間目／全11時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力
1 本時の学習課題を確認する。 めあて _____ これはふしぎだと思った国の「ふしぎな家カード」を書こう。	◇人と家の関係や筆者の三つの観点に沿って自分が選んだ国の家について「世界のふしぎな家カード」にまとめることを確認する。	
本時のゴールの見通し A ：これはふしぎと思った家について、本文や写真から読み取ったことをわかりやすく整理し、理由を表す言葉を使って筆者の観点と関係付けて文にまとめている。 B ：これはふしぎと思った家について、本文から読み取ったことを整理し、筆者の観点と関係付けて理由を表す言葉を使って文にまとめている。		
2 これはすごいと思った国とその家のつくりについて前時までに読み取り、整理し分析したキーワードをいくつか発表する。 ○自分が選んだ国の家の写真や絵を見て、どんなことが分かりましたか。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> □思考の場の工夫 関係付ける 選んだ国の家について、二つの観点で整理したことを文にまとめる。 </div> (例) 〈カナダ北部の家〉 ・雪と氷で覆われた土地 ・植物が生えない ・雪のブロックを積み上げて造る ・アザラシ漁をするため移動する	◇読み取った国の家のキーワードの一部を二つの観点に分けて、発表する。	

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p> <p>☆育成したい資質・能力</p>
<p>3 分類した情報を使って「世界のふしぎな家カード」にまとめる。</p> <p>○これまでにまとめたモンゴルとセネガルまたはチュニジアの家を紹介する文のように、三段の段落で紹介する文を書きましょう。</p> <p>(例) <カナダ北部の家></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫→雪で簡単に造った家 ・材料→雪のブロック ・暮らし→アザラシや魚をとって暮らすため数日で移動をする。 ・土地の特徴→雪と氷に覆われ、植物が生えない。 <p>4 「世界のふしぎな家カード」に書いた家の題名を付ける。</p> <p>5 「世界のふしぎな家カード」に書いた文を発表し、本時のまとめをする。</p>	<p>◇①家のつくり，材料</p> <p>②人々の暮らし</p> <p>③そのつくりになっている理由（土地の特徴）の三段落構成で書くことを再度確認する。</p> <p>◆書くことが難しい児童には、穴埋め式になっているワークシートを用いて考えさせる。</p> <p>◇「から」「ので」「ため」という接続語を使って理由を書くように指示する。</p> <p>◇人が読んで、不思議だなどと思う言葉を考えさせ、「○○の家」という題名を付けさせる。</p> <p>◇要約文を数名に発表させ、再度要点を確認し、本時のまとめをする。</p>	<p>☆これは不思議だと思った家についての写真と文章を関連付けている。</p> <p>◎これは不思議だと思った家について読み取り、中心となる語や文をとらえて三つの観点で要約している。〔読む能力〕</p> <p>(行動観察・カード)</p>
<p>★めざす児童の姿（次の3点について書いてあればよい。）</p> <p>①家のつくり，材料について簡潔にまとめている。</p> <p>②そこに住む人々の暮らしについて簡潔にまとめている。</p> <p>③そのつくりになった理由について簡潔にまとめている。</p> <p>ドームのような形の家があります。雪のブロックを積み上げて造ったイグルーという家です。</p> <p>冬の気温がマイナス30度から40度になります。農耕ができないので、魚やアザラシを獲って移動しながら暮らしています。</p> <p>この地域はあまりに寒いので植物が生えません。家を建てる材料の木などがいないため、雪を利用して家を造っています。</p>		
<p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>◇次時は、書いたカードに絵をかき、その他の情報を付け加えることを伝える。</p>	

(4) 板書計画

まとめ

1 家のふしぎなところとざいりよう

2 人々のくらしと土地の特徴

3 そのつくりになつてゐる理由

ふしぎの家の
写真

雪の家（カナダ）

家のくふう
ざいりよう

雪でつくつた
ブロック

積み上げて簡単に
造つてゐる

土地のとくちよう
人々のくらし

マイナス三十度
アザラシを獲つて移動
していく

雪と氷に覆われて植物
が生えない

めあて

これはふしぎだと思つた国の家の「ふしぎな家カード」を書こう。

ゴール

○理由を表す言葉を使って文にまとめる。

◎わかりやすく筆者の考えにそつて。

世界をぐるりゝなるほど！ふしぎな家のすてきなくふうゝ

「人をつつむ形―世界の家めぐり」

小松 義夫

〈参考〉 学びのモニタリング

海田東小 学びのモニタリング

世界をぐるりゝなるほど！ふしぎな家のすてきなくふうゝ

「人をつつむ形―世界の家めぐり」

三年 組 番（ ）

① 世界のふしぎな家カードを作るためにすすんで文しよ
うや写真、絵を読んだり書いたりした。

とても まあまあ あまり まったく

4 3 2 1

【理由】

② 筆者の考えにそつて説明文を読んだり、キーワードや中
心文を見つげながら文しよや絵に読んだりまとめた
りした。

とても まあまあ あまり まったく

4 3 2 1

【理由】

③ これまでの自分の国語の学習のようすとくらべながら学習を
ふりかえり、感そうを書きましよう。

.....

.....

.....

.....